

## 実践のまとめ（第3学年3組 社会科）

### 1 研究テーマ

#### 「社会とのかかわりを通して、思考力を高める単元づくり」 ～ICTの活用を通して～

令和3年11月8日5校時  
指導者 五泉市立五泉北中学校  
教諭 明田川 貴俊

### 2 研究テーマについて

#### （1）テーマ設定の意図

中学校学習指導要領(平成29年3月告示)では、「2 社会科改訂の趣旨及び要点」の「(2) 改訂の要点 ④学習指導の改善充実等」において、「単元を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることが重要である」としている。このことから、単元を通して学習できるよう、「単元をつらぬく課題」を設定し、課題をつかんだり、考えたりする活動、まとめる活動を計画的に行っていくことで、課題を追究したいという生徒の意欲を高め、多面的・多角的に社会的事象を考えることで思考力の向上を図ることができると考えられる。加えて、令和2年度のGIGAスクール構想の前倒しにより、「1人1台端末」の環境が本格的に整備され、ICTを活用した授業が一段と重要になってきている。「1人1台端末」を活用した授業では、生徒一人ひとりの反応を効率よく把握でき、それを踏まえた双方向の授業が可能となる。生徒同士の意見交換や情報共有のスキルを身に付けることによって、深い学びの実現により有効なツールになると考えられる。

#### （2）研究テーマに迫るために

「単元をつらぬく課題」を意識した単元づくり、授業づくりを行うために、単元の導入の授業では、「単元をつらぬく課題」についての資料を提示し、何が問題かを把握する時間とする。また、設定した「単元をつらぬく課題」を毎時間、様々な角度から考察できるように課題を設定し、グループ活動を通じて生徒同士の意見を交流させていく。その際の手立てとしてICTを活用し、生徒同士の意見交換や情報共有を行っていく。

#### （3）研究テーマに関わる評価

五泉北中学校では、研修課題として、「主体的に学ぶ生徒の育成～学び合いを通して～」を掲げている。本実践で行う「単元をつらぬく課題」をつかむ段階では、生徒にとって身近であり、切実感のある課題を設定し、生徒の主体性を引き出せるよう工夫する。また、課題を追究することを通して、生徒の思考力を高めることをねらいとするため、以下の3つの観点から評価を行う。

- ① 「単元をつらぬく課題」に対して、理由や根拠にもとづいて自分の意見をまとめることができたと評価する生徒が80%以上になる。
- ② 意見交換を積極的に行うことができたと評価する生徒が80%以上になる。
- ③ 振り返りの記述が、多面的・多角的なものに変化し、自分なりの考えを書けているか。

### 3 単元と指導計画

#### （1）単元名

五泉市をよりよい街にするために、どのようなことができるか？

## (2) 単元の目標

- 地方自治のしくみを理解して文章にまとめ、地方財政にどのような課題点があるか、資料を参考に文章でまとめている。
- 五泉市をよりよい街にするために、税金の使い方や条例、どのような NPO をつくっていくとよいか、自分の考えをまとめている。
- 五泉市をよりよい街にするために、どのようなことを行っていくとよいか考え、まとめている。

## (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治のしくみを理解し、文章にまとめている。</li> <li>・地方財政にどのような課題点があるか、資料を参考にまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい街にするための税金の使い方について、考えることができる。</li> <li>・五泉市をよりよい街にするために、どのような条例や NPO をつくっていくとよいか、自分の考えをまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五泉市が何を行っていくとよいか考え、イメージマップを用いて整理している。</li> <li>・各班との情報共有を踏まえ、よりよい街にするための取り組みをまとめている。</li> </ul>

## (4) 単元の指導計画と評価計画 (全 6 時間、本時 6 / 6 時間)

時間	学習内容	学習活動	評価規準 ( ) 評価方法
1	<p>A～Dの候補者の公約を比較し、どの候補者を市長に選ぶかを考える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>【公約を見る視点】</b></p> <p>公正：公約の内容がより多くの市民に利益のあるものになっているか。</p> <p>効率：予算を効果的に使い、市により多くの利益をもたらしているか。</p>	<p>架空の街、X市の実態を踏まえ、A～Dの候補者の公約を比較し、どの候補者が市長としてふさわしいかを考える。</p> <p>A候補 20億円をかけ、総合公園を整備する。多くの世代の人に使ってもらえ、避難所にもなる。</p> <p>B候補 40億円をかけ新しいゴミ処理場を整備し、古いゴミ処理場にかかる維持費を削減する。</p> <p>C候補 50億円をかけ、体験型のテーマパークをつくる。雇用も生み出せ、市外から人を呼び寄せる。</p> <p>D候補 50億円をかけ、高齢者施設と保育園を併設した、総合福祉センターをつくる。高齢化と少子化に同時に対応する。</p>	<p><b>思：</b>どのような視点で候補者を選ぶとよいか、理由も含めて説明している。</p> <p style="text-align: right;">〈プリント〉</p>
<p><b>単元をつらぬく課題：自分の住む街をよりよい街にするためにどのようなことを行っていくとよいか？</b></p>			

2	<p style="text-align: center;"><b>学習課題：身近な地域の政治はどのように行われているのか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治体の仕事を把握し、五泉市が何を行っていきべきか考える。</li> </ul> <p><b>【資料】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>五泉市の人口ピラミッド 2019年～2045年（予想）</li> <li>今後のまちづくりのための「五泉市民アンケート」（平成27年実施）</li> <li>自分の住んでいる街の実態（人口の推移やアンケート結果）を踏まえ、どのようなことを行っていくとよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五泉市の人口の推移と、五泉市役所が行ったアンケートをもとに、シンキングツール（フィッシュボーン）を使い、何を行っていきとよいか考える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロイロノートを使い班ごとの考えを共有する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の考えも踏まえつつ、どのようなことを行っていくとよいか考える。</li> </ul>	<p><b>態：</b>複数の資料から五泉市が何を行っていきとよいか考え、シンキングツールを用いてまとめている。（プリント）</p>
3	<p style="text-align: center;"><b>学習課題：地方公共団体は、どのようにお金を使っていくべきか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方財政にどのような課題があるのか把握し、どのように財政が行われるべきか考える。</li> </ul> <p><b>【資料】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京と地方の歳入の内訳のグラフ</li> <li>地方債の発行残高の推移</li> <li>五泉市の歳入と歳出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方財政にどのような課題点があるか把握する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京に比べ地方は依存財源の割合が高く、借金が年々増加していることを把握する。</li> <li>五泉市も依存財源の割合が高いことを知り、何らかの対応が必要であることを理解する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>五泉市がどのようなことにお金を使っていくべきか、優先順位をシンキングツール（ピラミッドグラフ）を用いて考える。</li> </ul>	<p><b>知：</b>地方財政にどのような問題点があるか、資料を参考にまとめることができる。（プリント）</p> <p><b>思：</b>五泉市がどのようなことにお金を使っていくべきか、文章にまとめている。（プリント）</p>
4	<p style="text-align: center;"><b>学習課題：地方自治はどのようなしくみで行われているのか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治のしくみを理解する。</li> <li>選挙を通じて、首長と地方議員の両方を選ぶことに加え、署名を通じた直接請求もできることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二元代表制のしくみや住民の意見を反映させる仕組みを理解する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの人の賛同が得られる政策が実現しやすくなる。</li> </ul>	<p><b>知：</b>地方自治のしくみを理解し、文章にまとめている。（プリント）</p>

	る。	ることを理解する。	
5	<b>学習課題：住民が直接参加して、よりよい街にするためには、何をすべきか。</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が直接参加して、よりよい街にするために、どのようなことを行っていくとよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が署名を通じて条例の制定を請求でき、NPO を設立して活動を行えることを知る。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五泉市をよりよい街にするために、どのような条例やNPO が必要となってくるか考える。</li> </ul>	<p><b>思：</b>五泉市をよりよい街にするために、どのような条例や NPO をつくっていくとよいか、まとめることができる。</p> <p style="text-align: right;">〈プリント〉</p>
6 本 時	<b>学習課題：五泉市をよりよい街にするためにどのようなことができるか？</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五泉市をよりよい街にするために、どのようなことを行っていくとよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい街にするための方法を考え、前時までの内容（財政面の優先順位や多くの人に賛同を得られるか）を踏まえて、どのような方法で実現していくのか話し合う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ間で情報共有し、良い点や改善点を伝え合う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループから指摘された内容を踏まえ、振り返りを書く。</li> </ul>	<p><b>態：</b>各班との情報共有を踏まえ、よりよい街にするための方法をまとめている。</p> <p style="text-align: right;">〈プリント〉</p>

#### 4 単元と生徒

##### (1) 単元について

中学校学習指導要領（2018）では、「身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連付けて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することが大切である。」と書かれている。そのため、生徒に切実感を抱かせて主体的に課題を考えられるよう、地域の地方自治体を取り上げ、自分の住む地域の抱える課題や魅力に気付けるよう授業を行っていく。地域の課題や魅力を踏まえ、どのようなことを行えばよりよい街になるか、方策や実現するまでの手立てを考えていく授業を行っていきたい。

##### (2) 生徒の実態

本クラスの生徒は、男子 15 人、女子 12 人、計 27 人である。落ち着いて学習に取り組み、まとめや振り返りなど記述を伴う課題も真剣に取り組む生徒が多いが、生徒間の意見交換の

際に、活発に活動できない生徒もいる。

## 5 本時の展開

### (1) ねらい

- ・各班との情報共有を踏まえ、五泉市をよりよい街にするために、どのようなことを行っていくといいか文章でまとめている。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### (2) 展開の構想

本時では、前時までに行ってきた活動をふまえ、グループ内で話し合う活動を行う。話し合った内容を、タブレット端末（アプリはロイロノートを使用）を用いて情報共有し、各班の考えた内容の「良い点」と「改善点」について情報共有し、再度自分たちの班の考えを振り返る。

### (3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働きかけ 予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5	○本時までの学習の振り返り	・教師から質問をし、それに答える。	○本時までに使ったプリントの箇所を明示しながら進める。
35	○本時の課題の提示 ○魅力的な街になるための方策を考える。 ○グループで話し合っまとめた内容を情報共有する。 ○各グループの方策に対して「良い点」「改善点」を、指摘し合う。	<p style="text-align: center;"><b>学習課題：五泉市をよりよい街にするためにどのようなことができる？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに分かれ、魅力的な街になるような方策を考え、どのような方法で実現していくのか(条例の制定・NPOの設立など)話し合う。</li> <li>・グループで話し合っまとめた内容を、ロイロノートを情報共有する。</li> <li>・各グループの方策に対して「良い点」「改善点」を付箋に書いてまとめ、ロイロノートを使い各グループと情報共有する。</li> </ul>	◇考える際に、本時までのプリントの内容を参考に方策を考えさせる。
10分	○各班から出た「良い点」や「改善点」をもとにまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに記入</li> <li>・まとめ</li> </ul>	<b>態</b> 各班との情報共有を踏まえ、魅力的な街にするための方法をまとめている。

### (3) 本時の評価

- ・各班との情報共有を踏まえ、よりよい街にするための方法を文章でまとめている。  
(主体的に学習に取り組む態度)

## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

- ・ 1時間目で、「高齢者の割合が高いから、福祉施設をつくろうとしている候補にするべき」や「街に大きな公園がないから、公園の整備を考えている候補にするべき」など、街の現状を踏まえて候補者を選ぶ生徒がいる一方で、「今後かかる維持費を節約して、他のことにお金を使えるようにした方がいいから、新しいごみ処理場を建設する候補にするべき」など、公正や効率だけでなく、持続可能かどうかという視点からも考えることができた。
- ・ 2・3時間目で、フィッシュボーンやピラミッドグラフなどのシンキングツールを活用し、地方公共団体が行う政策の整理や優先順位付けを行った。漠然と意見を出すのではなく、政策を行う理由や背景も合わせてまとめ、意見を共有することができた。
- ・ 5時間目、6時間目を見据え、前時までに考えた政策などを、どのような方策で行うと実現できるか、考えた。直接請求や条例の制定、NPOの立ち上げなど、どのような方法であれば政策を実現することが可能か、という視点で、考えをより具体化させた。

### (2) 研究テーマに関わって

「表1 単元を通した課題に対して、理由や根拠にもとづいて自分の意見をまとめることができる」に関しては、実践前のアンケートで、肯定的な回答をしている生徒は全体の47%であったのに対して、実践後のアンケートでは、肯定的な回答をしている生徒は全体の63%であり、3名の生徒が肯定的な評価に変わっていた。五泉市の人口ピラミッドの推移や五泉市民に行われたアンケートを活用して、自分の意見をまとめている生徒が多く見られた。

「表2 意見交換を積極的に行うことができる」に関しては、アンケートの感想の項目で、「タブレットを使った方が意見を伝えやすかった。」と記述している生徒がいた。「話す」ことを通じた意見交換以外にも、ICT機器を活用した意見交換を通して、生徒の深い学びにつながると思える。

【表1 単元を通した課題に対して、理由や根拠にもとづいて自分の意見をまとめることができる】

	とてもできる	できる	あまりできない	できない
実践前のアンケート	5名 (18%)	8名 (29%)	10名 (37%)	4名 (16%)
実践後のアンケート	7名 (26%)	10名 (37%)	8名 (30%)	2名 (7%)

【表2 意見交換を積極的に行うことができる】

	とてもできる	できる	あまりできない	できない
実践前のアンケート	8名 (30%)	12名 (44%)	6名 (22%)	1名 (4%)
実践後のアンケート	10名 (37%)	12名 (44%)	4名 (15%)	1名 (4%)

### (3) 今後の課題

- ・ 「どの資料が、単元をつらぬく課題にせまるのに役立ったか」や、「どの思考ツールが単元をつらぬく課題にせまるのに役立ったか」など、生徒の思考や課題の追究の過程がわかるようなアンケート項目を立て、今後の実践に生かせるようにするべきだった。
- ・ 本実践で、生徒が切実感をもって取り組めるよう生徒が身近に感じる「単元をつらぬく課題」を設定した。より切実感を持たせられるよう、生徒が自ら課題生成できるようにするための、資料の提示の仕方や、活動内容の工夫が今後の課題である。

#### <参考・引用文献>

文部科学省 (2018) 『学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版社  
文部科学省 (リーフレット) GIGA スクール構想の実現へ